

大樹・移住定住促進事業

若手芸術家が酪農体験

【大樹】町が若手芸術家を酪農の担い手として受け入れ、移住定住につなげる事業で、25～28の4日間、事業の参加を検討している2人の芸術家が来町し、酪農ヘルパーの仕事に取り組んだ。アトリエとなる町内の施設も見学し、町へ移住した場合の生活を体験した。

芸術関係の大学を卒業した時間があつた酪農ヘルパーとして若者は制作と仕事の両立が難く、受け入れ、アトリエとなる施設も提供することで、生活現状があり、一方で地方にはの安定と制作を継続できる環境を用意する。事業は東京の「AGホール



「体力づくりも必要」と話す佐川さん（青木牧場）

町が仕事とアトリエ提供「制作活動にばっちり」

ディングズ」(柴山哲治社長)、南十勝酪農ヘルパー有限責任事業組合に委託。国の地方創生加速化交付金で委託費やアトリエとなる施設改修費を賄う。

25日には名古屋造形大学卒の佐川麻代さん(28)、京都精華大学卒の由里明子さん(27)が来町。アトリエとなる予定の尾田児童館を見学したほか、酪農家にホームステイして酪農の仕事を経験した。

大樹町開進の青木牧場(青木昌実代表)には佐川さんが宿泊。搾乳や餌やり、子牛への哺乳を体験した。佐川さんは「牛はかわいらしくて癒やされる。酪農ヘルパーは複数の農家を回るので、各農家の作業方法を覚えるのが大変。仕事を続けるには体力づくりも必要と感じた。静かで広々としており、制作活動には「ばっちり」と話していた。

青木さんは「やる気も度胸もすごくある」と評価していた。今後、芸術家の2人は、体験を踏まえて今後の事業参加を考える。

(伊藤亮太)